

俳人協会高知県支部

春の俳句大会作品抄

令和五年四月二日（日）

於 佐川町 総合文化センター

【大会賞】

囀や丸太の芯は真紅まぐれない

田中 杏

桃咲いて山の戸に嬰の声

亀井雉子男

あたたかや今日も誰かの手を借りて

前川 恵女

【秀逸】

菜の花のひかりの先へ土讃線

田村 乙女

M R I 年相応という朧

橋本 絹子

清明や鋤き返したる土の色

中平キリン

忘るるが長寿の秘訣さくら餅

野田美佐子

母のみに解る片言つくしんぼ

竹崎 いと

【佳作】

魚買うて本屋をのぞく遅日かな

稲田 喜子

その辻にかつて遊郭糸柳

山本 敏子

畑打ちて子育てのごと土の色

岡村 鈴

半島は寝釈迦のかたち鳥雲に

平井 静江

背伸びして「僕」から「俺」にねぎ坊主

川添 節子

微睡を連れてサツチモ春の昼

下元 永博

大樟に百畳の根や囀れる

乾 真紀子

この村のちまたの神に花の雨

野村 里史

たんぽぽの絮や蹴鞠にある作法

宮尾 祐幸

うららかや蕩とろけるやうに眠る嬰

小島久美子

【選者】味元 昭次 特選

忘るるが長寿の秘訣さくら餅

野田美佐子

あたたかや今日も誰かの手を借りて

前川 恵女

微睡を連れてサツチモ春の昼

下元 永博

【選者】植田 紀子 特選

轉や丸太の芯は真紅まぐれない

田中 杏

とばぬやう鶯餅の折縛る

川添 弘幸

清明や鋤き返したる土の色

中平キリン

【選者】石坂陽太郎 特選

M R I 年相応という朧

橋本 絹子

顔出して魚も迎へる初燕

乾 真紀子

けふであることを忘るる日永かな

田中 杏

【選者】乾真 紀子 特選

たんぼぼの絮や蹴鞠にある作法

宮尾 祐幸

桃咲いて山の一戸に嬰の声

亀井雉子男

M R I 年相応という朧

橋本 絹子

【選者】亀井雉子男 特選

母のみに解る片言つくしんぼ

竹崎 いと

ワガハイハ亀ナリ鳴イテミセヨウゾ

田村 乙女

轉や丸太の芯は真紅まぐれない

田中 杏

【選者】岡崎 桜雲 特選

露味噌や一人暮らしに慣れすぎて

前川 恵女

魚買うて本屋をのぞく遅日かな

稲田 喜子

桃咲いて山の一戸に嬰の声

亀井雉子男

【一人一句】

けふはけふ明日は明日の句花おぼろ

津田 吾燈人

貧しさも中位なり花の下

竹崎たかひろ

貼り紙の筆字大きく桜餅

西岡 栄子

花の雲抜け会場へ後一步

片岡 幸枝

三寒を四温を浜の重機音

安房野 耕雲

平和なれば色とりどりに彼岸菓子

古谷 桜子

白木蓮散る月光に囁かれ

味元 昭次

その夜の眠り上々蕨狩

近藤 勝

揚雲雀ダムの底まで落ちにけり

山本あけはる

鳥帰る小枝一つを道づれに

植田 紀子

蒲公英の絮は涙で出来てゐる

今城 真人

鳩がゐて人ゐて遊園地のさくら

東谷 晴男

坂越せば土佐山学舎ホーホケキョ

横山 すまこ

朝市にはや筍の袋あり

松井 浪恵

糸ざくら風の形にしだれおり

廣田 昌子

酒蔵の壁のつめたさ竹の秋

有澤 榎植

風船があつけらかんと逃げてゆく

石坂 陽太郎

らんまんの花のご城下人やさし

岡崎 桜雲

お礼

令和五年度の俳人協会春の俳句大会を、初めて佐川で開催致しました所、お忙しい中御出席を賜り、皆さまのおかげで大会も無事終了致しました。感謝申し上げます。

秋の俳句大会も奮ってのご参加を心からお待ちして居ります。

俳人協会高知県支部